

モニタリングレポート(令和元年度)					
施設名	鈴鹿市第2療育センター				
施設所在地	鈴鹿市岡田701番地				
指定管理者名	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会				
評価担当課	障がい福祉課	問合せ先	059-382-7626		
施設の運営状況	(確認方法)月次報告, 事業報告書				
児童発達支援事業延べ利用者数	1,461名	放課後等デイサービス延べ利用者数	221名	保育所等訪問事業	8件
事業収支	(確認方法)事業報告書				
項目	計画値(単位:円)	実績値(単位:円)	計画比(単位:円)		
指定管理料	37,691,000	37,691,000	0		
障害福祉サービス等事業収入	16,731,000	17,344,172	613,172		
その他	1,000	48,959	47,959		
事業活動収入計	54,423,000	55,084,131	661,131		
人件費(給与・法定福利費等)	39,877,000	40,689,906	812,906		
事業費	15,027,000	14,885,383	▲ 141,617		
諸謝金	20,000	20,000	0		
給食費			0		
保健衛生費	69,000	65,978	▲ 3,022		
保育材料費	321,000	299,082	▲ 21,918		
消耗器具備品費	13,992,000	13,918,241	▲ 73,759		
教育指導費	547,000	505,627	▲ 41,373		
車両費	40,000	40,723	723		
雑支出	38,000	35,732	▲ 2,268		
事務費	4,203,000	4,153,058	▲ 49,942		
福利厚生費・旅費・研修費	213,000	207,308	▲ 5,692		
事務消耗品費・印刷製本費	758,000	732,904	▲ 25,096		
水道光熱費	386,000	336,049	▲ 49,951		
修繕費	1,021,000	1,020,828	▲ 172		
通信運搬費	104,000	130,113	26,113		
会議費・広報費	11,000	11,000	0		
業務委託費	706,000	730,809	24,809		
手数料	63,000	61,258	▲ 1,742		
保険料	114,000	113,710	▲ 290		
賃借料	455,000	473,134	18,134		
公租公課支出			0		
保守料	336,000	336,945	945		
負担金			0		
事業活動支出計	59,107,000	59,728,347	621,347		
事業活動収支	▲ 4,684,000	▲ 4,644,216	39,784		
施設整備等による収支	▲ 15,504,000	▲ 15,502,439	1,561		
その他の活動による収支	24,953,000	27,272,254	2,319,254		
当期資金収支	4,765,000	7,125,599	2,360,599		

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	適切に履行されている
	現地調査	○	適切に履行されている
	定例報告会	○	適切に履行されている
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	要望はあるが、利用者は満足している
	現地調査	優良	利用者への支援内容は適切である
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表 (拠点区分)	○	純資産がプラスである。
	年度事業報告書 (収支計算書)	○	当期資金収支差額合計、当期末支払資金残高ともにプラスである。
	年度事業報告書 (財産目録)	○	資産が負債を上回っている。(差引純資産がプラス)
年度業務報告書の内容評価			○適・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力いずれの点においても適切に実施されている。			
定例報告会の頻度と内容の評価			○適・不適
月1回の定例報告を受けている。 課題等については、随時協議を行っている。			
緊急時の対応評価			○適・不適
報告を要する案件はなかった。 法人内部での報告体制はできており、必要事項は市にも報告される。			
指定管理者の総括評価			○適・不適
業務の履行やサービスの質、業務遂行能力では問題はなく、また、児童発達支援センターとして、圏域における中核施設としての姿勢も良好である。			
施設の課題と対策			
旧牧田幼稚園を改修した施設のため、運用開始後いくつかの課題が発生したが、順次対応を行った。 (施設への進入路が狭く車が入りにくかった。教室のすぐ外が渡り廊下で駐車場へ飛び出してしまう。)			
施設の方向性			
鈴鹿市第1療育センターとともに、「児童発達支援センター」として、本市の児童発達支援における中心的な中心的な役割を担っており、引き続き継続した運営を行っていく。			